

母指 CM 関節症に対する鍼治療

—1 症例報告—

岸本 優介, 今枝 美和, 北小路 博司, 糸井 恵, 井上 基浩

臨床鍼灸学専攻

【目的】母指 CM 関節症に対して、鍼治療を行い、症状の改善が得られたので報告する。

【症例】66 歳, 女性. 主訴: 右母指基部の疼痛. 現病歴: X-2 年頃, 症状出現. 右母指 CM 関節症と診断され, 薬物療法と装具療法を開始. 症状の改善が見られなかったため, X 年 9 月, 再度受診, 鍼治療を開始. 現症: Grind test: 右陽性. 右のみ母指 MP 関節の伸展, CM 関節の尺側内転および橈側外転で疼痛を自覚. 治療: 長母指外転筋, 長母指伸筋, 短母指伸筋の起始部と母指 CM 関節の関節裂隙部 3 ヶ所に単刺術を施行した (計 10 回, 1 回/1~2 週). 評価: 毎回の鍼治療前後に疼痛の程度を Visual Analogue Scale (VAS) で記録し, Quick Disability of the Arm, Shoulder, and Hand questionnaire (Q-DASH) を用いて毎回の治療前に QOL 評価を行った.

【経過】VAS, Q-DASH とともに 6 診目までに漸減した. 10 診時には Grind test 陰性となり, 母指の可動による疼痛は何れも改善した.

【考察】薬物療法や装具療法が無効な母指 CM 関節症に対して, 関節可動に関わる筋の起始部や疼痛部への鍼治療は有用な治療法である可能性を考えた.

頸部・手部の鍼刺激が自覚的耳鳴に与える影響の基礎的研究

鶴 浩幸, 福田 晋平, 江川 雅人

保健・老年鍼灸学講座

【目的】鍼治療が自覚的耳鳴を軽減させる場合があるが, 科学的な概念やデータに基づく刺鍼部位の選択理由や効果については不明な点が多い. 我々はこれまでに顔面部や頸部の自動運動や経穴などへの指頭による圧刺激, 経皮的ツボ電気刺激 (TEAS) などの体性感覚刺激が耳鳴に影響を与えること, 大きさの軽減という点では自動運動より圧刺激や TEAS の方が効果的であることを見出した (JSPS 科研費 基盤研究 C24500840). 本研究では鍼刺激が耳鳴に与える影響について検討した.

【方法】対象はインフォームドコンセントの得られた健康成人ボランティア 15 名 (平均年齢 25 歳) であり, 静かな環境下で耳鳴を感じる者とした. 被験者は耳栓とイヤーマフを装着後に環境音が 33 dB 以下の静かな部屋に入り, 以下の介入による耳鳴の変化が検討された. 1. 頸部 (5 ヶ所) や手部 (1 ヶ所) の経穴などに対する圧刺激を各 30-45 秒間行い, 2. 耳鳴が変化した部位に対する鍼刺激を各 30-45 秒間行った. 耳鳴は visual analogue scale (VAS) や標準耳鳴検査法 1993 における耳鳴の自覚的表現の問診票に基づいて作成した評価表により, 大きさや持続などが聴取された. トランスデューサー指示計を用いて, どの程度の強さで圧迫した時に耳鳴が変化するかも検討した. 【結果】前述 6 ヶ所に圧刺激 (平均 1.39kgf) を行って耳鳴が変化した部位を確認後 (13 例), その部位に鍼刺激を行った結果, 13 例中 12 例 (92.3%) において, 耳鳴の大きさの軽減 (8 例) または消失 (4 例) がみられた. 鍼刺激により耳鳴が変化した場合には, 大きさや持続の有意な減少が認められた.

【考察】鍼刺激により耳鳴が軽減, 消失する場合のあることが示唆された. 圧刺激を応用する方法により, 耳鳴に有効な鍼刺激部位を簡便に検出できることが示唆された. 【謝辞】本研究は JSPS 科研費 基盤研究 C 16K01780 の助成を受けたものである.